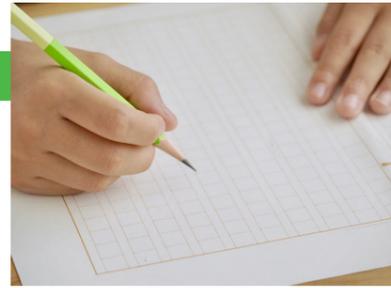


戦争のない世界を後世につなぐ

令和7年は、戦後80年の節目の年でした。

令和7年12月7日に、黒田庄地区文化祭の講演会で、講師の木村浩一さん(加古川市立尾上公民館長)が、終戦の昭和20年前後に明石市に住んでいた13歳の少年のつづった日記と新聞を紹介しました。この日記などは、木村さんが小学校教師だったときに、子どもたちに出した夏休みの宿題の中にあつたものです。木村さんは原本のコピーを取り、聞き取り調査をして、戦争の貴重な資料として残していました。その日記からは、少年の目を通して見た戦時中の生活の様子が伝わってきました。

まず、食料や日用品をもらったり届けたりした近所とのやりとりが書かれていました。人のつながりが強く、困ったことは互いに支え合い、助け合っていた様子が伝わってきました。次に、朝昼晩の食事の内容が詳細に記されていました。配給で我慢を強いられながらも、文句を言わず



耐えている様子が分かりました。最後に、毎日の新聞記事の見出しを、彼は記録していました。少年の戦勝への期待が伝わってきました。自身の将来への希望を記さず、ひたすらに戦勝を祈る内容でした。それが、当時の子どもたちの唯一の希望だったことが伝わってきました。

戦後80年にもなると、その記憶を語る人は少数になり、いずれはその貴重な体験を聞くことができなくなります。多くの尊い犠牲から得た教訓がありながら、今でも世界各地で戦争が続いています。戦争は他人事ではないこと、平和な世界は当たり前にあるのではないことを、私たちは戦争を経験された方々から学んできました。これからは「戦争を知らない」私たちが、その経験を伝え、平和な世界の重みを子どもたちにつないでいかなければなりません。



炭化した建築材検出状況



焼失竪穴建物全景(南から)



▼問合せ 郷土資料館(☎2315992)
焼失竪穴建物とは、焼失家屋などとも呼ばれ、火事により焼け落ちた竪穴建物のことです。
野中・高ノ坪遺跡で発掘された焼失竪穴建物は、4・9m×4・4mの方形に造られており、南角には幅2・1m、長さ0・8mの張り出しが設けられています。
建物には炭化した建築材が残っていたほか、炭が散らばっており、出火時に建物内に置かれていた土器が、燃え落ちた建材に押しつぶされた状態で見つかりました。このことから、建物が使われていた状態で焼失したと思われる。出土した弥生土器から、弥生時代後期(約1800年前)の建物と考えられます。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪(78) 野中・高ノ坪遺跡の焼失竪穴建物(野中町)

市長からの手紙 西脇を元気に!!

146



2月17日に兵庫三菱自動車販売と連携協定を締結

新たな息吹へ期待!
このたび、兵庫三菱自動車販売の野球部が4月より西脇市を拠点にし、活動を開始されることになりました。これに先立ちまして、先日、兵庫三菱自動車販売と西脇市は相互の発展につながることを目指し、連携協定を結びました。西脇市を社会人野球チームの拠点に選んでいただき、市内のグラウンドを練習拠点とし、さらに選手や関係者の約30名の皆さんが本市に居住くださることを大変光栄に思い



西脇市長 片山 三

ます。本市に兵庫三菱自動車販売さんの車両センターや販売店があることに加え、令和2年には災害協定を締結したことも、西脇市に拠点を置いていただく大きな要因だと思います。
西脇市は近鉄バファローズで活躍された鈴木啓示さん、オリックス・バファローズで監督を務められた森脇浩司さん、現在活躍中の甲斐野央投手(埼玉西武ライオンズ)をはじめ、多くのプロ野球選手を輩出してきた野球とゆかりの深いまちであることも関係していると思います。このチームが「NISHIWAKI」の表示されたユニフォームを着用し、東京ドームで活躍される日を楽しみにしています。これからの活躍はもちろんのこと、野球を通じて市民同士の交流が深まることなど、地域に生まれるさまざまな広がりに大いに期待しております。皆さんとともに、地域を盛り上げてまいります。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー 「人形劇」で心に残るイベントを西脇市にー市民提案型まちづくり事業採択団体の紹介ー

にしわき人形劇普及活動会は、人形劇を観劇できるイベントを開催し、伝統的な芸術・文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの豊かな人間性を育むことを目的に活動しています。

1月に開催した「にしわき人形劇フェスティバル2026」では、プロ劇団「人形劇団とんと」など5劇団による人形劇の公演のほか、子ども向けワークショップ、オーガニックマルシェなどを盛り込み、約400人の来場者が芸術・文化に触れました。



今後も継続的に催しを開催することで「今年はいつかな」と楽しみにしてもらえるイベントにし、まちを元気にしたいと意気込んでいます。

西脇の自然 624

ミヤマカタバミ

かたばみ科



高さ10cmほどの多年草で、道端や公園などでよく見かけるカタバミと同じ仲間ですが、花はカタバミよりだいぶ大きいです。花期である3~4月の春先に2~3cmほどの白い花が咲きます。「深山」と名前がつく通り山地の林床に多く、市内周辺では見られる場所が限られます。多くのカタバミの仲間の花や葉は晴天でよく日光が当たらないと開かず、夜間や日が陰ると花も葉も閉じる「睡眠運動」をする性質があります。

閉じた葉が食いちぎられたように見えるので、「片喰」の名前が付いたとされています。また葉や茎にシュウ酸を含み酸っぱいので、「酢漿草」とも書きます。十分に開いた花はなかなか見られず、白い花なので日光で明るく写りすぎるなど、撮影が難しい花です。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】